

## 我孫子市学校施設個別施設計画（案）についての質問詳細

### （1）今後整理すべき学校施設の課題と方向性について

計画（案）では、学校施設の目指すべき姿を実現するための課題を4点あげています。

そして、課題に対応するために、4つの方向性が示されましたが、今回の計画（案）では、特に「児童生徒数の減少に応じた施設規模の見直し」という課題への対応が前面に押し出されており、新たな学習形態に対応するための学校施設のあり方等、他の課題への対応策が学校施設の今後の方向性の中にほとんど見られません。

学校施設の課題と方向性について、市の見解をお聞かせください。

### （2）将来変化への対応（我孫子市における学校の適正規模の検討基準の明確化）について

#### ア. 適正規模の検討基準の明確化の目的

これまで我孫子市では学校の適正規模を示すことをしてきませんでした。今回の計画（案）では、学校の適正規模の検討を始める基準を設定しています。その目的をお聞かせください。

#### イ. 今後の学校運営（施設）の方向性

これまで我孫子市では、小規模校であれば、その良さを生かした学校運営を行ってきました。

しかし、今回、学校の適正規模の検討を始める基準を設定したことによって、今後は小規模校をなくしていくということなのか、今後の学校運営の方向性についてのお考えをお聞かせください。

#### ウ. 我孫子市における学校の適正規模について

今回、小学校の適正規模は、各学年2学級以上、全体で12学級以上24学級以下、言い換えると各学年2学級から4学級。

中学校の適正規模は、各学年3学級以上、全体で9学級以上24学級以下、

言い換えると各学年3学級から8学級と示されました。

この適正規模の設定にあたっては、どこで、誰が、どのような検討を行ったのか、お聞かせください。

また、先程示した各学年の学級数や全体の学級数を何故我孫子市の学校の適正規模としたのか、その根拠をお示してください。

#### **エ. 適正規模の検討手順について**

計画（案）では、学校の適正規模を検討する手順が3段階に区分されて示されました。

3段階目にあたる学校を把握したら、その後の児童生徒数の推計を確認したうえで、（仮称）適正規模検討委員会を設置すると書かれていますが、現在、市内の学校の内、3段階目に該当する学校はどこなのか、また、（仮称）適正規模検討委員会のメンバー構成等、概要をお示してください。

3段階目の学校を把握した場合、保護者、地域への速やかな周知を行いますとしていますが、何を周知するのか、お答えください。

また、計画（案）には、「現在は、分離型の小中一貫教育を進めています。今後は地域の特性に合わせた、一体型の小中一貫校等を含め広く検討します。」と書かれていますが、『地域の特性に合わせた一体型の小中一貫校』とはどのようなものを想定しているのか、詳細をお示してください。

#### **（3）プール施設のあり方の見直しについて**

現在、小中学校19校全てに整備されているプール施設も老朽化が進み、今後の大規模改修等には多額な費用がかかると想定されています。

今後は様々な手法の中から最適な方法で管理運営を工夫する必要がある、2020年度から今後のプールのあり方について検討を進めるということです。どのように検討していくのか、いつまでに検討するのか、検討結果をいつ頃から実行に移すのか、お聞かせください。

#### **（4）給食施設のあり方の見直しについて**

計画（案）には、学校給食施設についても、子どもたちのより良い教育環境の整備、給食の充実、食育の推進、安全衛生管理の徹底を図るため、児童生徒の将来推計を踏まえて、自校、親子、センターの各方式による提供方法を含めた給食のあり方を検討し、2020年度給食施設のあり方の方針を定めていく

と書かれています。

検討手法、検討時期、検討にあたっての市民参加の有無、方針を実行に移す時期をお聞かせください。

#### **(5) 布佐中学校区における学校施設のあり方の検討について**

計画（案）には、「布佐中学校区では、全学年で単学級が予想される状況になっていることから、2020年度から保護者や地域住民の方などを含め広く意見を募り、今後の布佐中学校区において最適な教育環境となり、地域コミュニティの形成も図られる学校施設のあり方を検討していきます。」と書かれています。検討手法、検討時期、検討結果を実行に移す時期をお聞かせください。

また、検討に際しては、学校施設は教育の場であると同時に、地域コミュニティの拠点であり、災害時には避難所となる等、学校の持つ多様な機能を考慮して検討すべきだと考えます。検討に際して考慮すべき点についてのお考えをお聞かせください。

学校施設の統廃合等については、総論賛成、各論反対となりやすい大変難しい問題です。市民との徹底的な議論を通して合意形成に努めていただきたいと思います。

#### **(6) 今後の維持・更新コストについて**

今回の計画（案）では、今ある施設の数と面積を維持・更新する場合にかかるコストを3通り試算しています。

そして、コスト縮減と平準化の効果が見込める第3案を整備の方向性とししました。

しかし、第3案を採用した場合でも、一年間に平均5億6千万円の経費が必要であった過去の財政ラインの2.5倍程度のコストが必要であることが試算されています。

今後の学校施設の維持・更新コストをどのように担保するのか、教育委員会と市の財政当局の見解をお聞かせください。

#### **(7) 我孫子市学校施設個別施設計画策定委員会**

##### **ア. 策定委員会のメンバー構成について**

学校施設は、子どもたちの教育環境を考えるうえで最も重要な施設であるとともに、地域コミュニティーの核となる施設であり、公共施設の中でも市民に最も関係のある施設です。

そのような学校施設の更新を検討する委員会の14名のメンバーの内、市民のメンバーはたったの2名、あまりにも市民参加が少ないと思います。

また、学校施設の更新にあたっては、学校教育を担っている教師の意見も重要ですが、教師の代表は校長先生が2名だけ、教育の専門家である教師の意見や現場の意見を反映させるには少なすぎると思います。メンバー構成についての市のお考えをお聞かせください。

#### **イ. コンサルタントの活用について**

私は策定委員会を2回傍聴しましたが、2回の会議の中で、コンサルタントの方がいろいろな説明をされていることに大変違和感がありました。

また、傍聴されている方からも、「我孫子市の学校施設の検討をコンサルタントに丸投げしていいのか」との厳しい非難の声もありました。

コンサルタントの専門的知識の活用を否定するものではありませんが、あくまでもコンサルタントを使うのは市の職員さんであり、どこの部分でコンサルタントを使うのか、どのように使うのかを考えるのも職員さんです。また、コンサルタントを使っても最終的に責任を持つのは職員さんです。

最終的な計画の取りまとめや会議での説明は職員の方が行うべきだと思います。

コンサルタントの活用についての市の見解を聞かせください。